

慶應義塾大学大学院 文学研究科 哲学・倫理学専攻

倫理学分野

倫理学は「善く正しいことは何か」を問う学問です。私立大学では珍しく哲学分野から独立に倫理学分野が設けられており、倫理学に特化して専門的な研究を行う拠点としては、倫理学分野は日本国内では最大規模のスタッフを擁しています。

倫理学分野の教員

教授 柘植尚則



イギリス倫理思想史

教授 W・エアトル



倫理学史
形而上学
現代倫理学

教授 荒谷大輔



ラカン、精神分析
哲学実践

教授 石田京子



カント実践哲学
政治哲学

准教授 圓増 文



生命倫理
医療倫理

助教 村上暁子



レヴィナス
実存思想
宗教哲学

各教員の主な業績

【柘植尚則】

- 『良心の興亡：近代イギリス道徳哲学研究』（ナカニシヤ出版、2003／増補版、山川出版社、2016）
- 『西洋哲学史入門：6つの主題』（編著、梓出版社、2006）
- 『哲学の歴史 第6巻 知識・経験・啓蒙：18世紀』（共著、中央公論新社、2007）
- 『イギリスのモラリストたち』（研究社、2009）
- 『プレップ倫理学』（弘文堂、2010／増補版、2021）
- 『プレップ経済倫理学』（弘文堂、2014）
- 『入門・倫理学の歴史：24人の思想家』（編著、梓出版社、2016）
- 『世界哲学史6 近代I 啓蒙と人間感情論』（共著、筑摩書房、2020）
- 『近代イギリス倫理想史』（ナカニシヤ出版、2020）
- 『人間は利己的か：イギリス・モラリストの論争を読む』（慶應義塾大学出版会、2022）

【エアトル、ヴォルフガング】

- The Guarantee of Perpetual Peace*. Cambridge: Cambridge University Press 2020.
- David Hume und die Dissertation von 1770. Eine Untersuchung zur Entwicklungsgeschichte der Philosophie Immanuel Kants*. Frankfurt/Main: Peter Lang, Europäischer Verlag der Wissenschaften 1999.
- Kants Auflösung der "dritten Antinomie". Zur Bedeutung des Schöpfungskonzepts für die Freiheitslehre*. Freiburg, München: Verlag Karl Alber 1998.
- Free Will, Foreknowledge, and Creation: Further Explorations of Kant's Molinism. In: *Kantian Review* 28 (2023), 4.
- Preparing the Ground for Kant's Highest Good in the World. In: *Philosophia* 49 (2021).
- Gott. In: *Kant-Lexikon*. Berlin, Boston: de Gruyter 2016.
- "Ludewig" Molina and Kant's Libertarian Compatibilism. In: *A Companion to Luis de Molina*. Leiden, Boston: Brill 2014.
- Kant and the Early Modern Scholastic Legacy: New Perspectives on Transcendental Idealism. In: *Departure for Modern Europe. A Handbook of Early Modern Philosophy (1400 -1700)*. Hamburg: Felix Meiner Verlag 2011.
- Schöpfung und Freiheit. Ein kosmologischer Schlüssel zu Kants Kompatibilismus. In: *Kants Metaphysik und Religionsphilosophie*. Hamburg: Felix Meiner Verlag 2004.
- Hume's Antinomy and Kant's Critical Turn. In: *British Journal for the History of Philosophy* 10 (2002) 4.

【荒谷大輔】

- 『ドゥルーズ／ガタリの現在』（共著、平凡社、2008）
『西田幾多郎：歴史の論理学』（講談社、2008）
『「経済」の哲学：ナルシスの危機を越えて』（せりか書房、2013）
『ラカン『アンコール』解説』（共著、せりか書房、2013）
『ラカン『精神分析の四基本概念』解説』（共著、せりか書房、2018）
『ラカンの哲学：哲学の実践としての精神分析』（講談社、2018）
『資本主義に出口はあるか』（講談社、2019）
『使える哲学：私たちが駆り立てる五つの欲望はどこから来たのか』（講談社、2021）
『贈与経済 2.0：お金を稼がなくても生きていける世界で暮らす』（翔泳社、2024）

【石田京子】

- 『カントを学ぶ人のために』（共著、世界思想社、2012）
『入門・倫理学の歴史：24人の思想家』（共著、梓出版社、2016）
『グローバル化時代の人権のために：哲学的考察』（共著、上智大学出版、2017）
『新・カント読本』（共著、法政大学出版局、2018）
『カント 自律と法：理性批判から形而上学へ』（晃洋書房、2019）
『カントと人権』（監訳共担、法政大学出版会、2022）

【圓増 文】

- "The expressivist argument for recent policy changes regarding the provision of prenatal testing in Japan," *Global Bioethics* 35(1), 2024.
- "Examination of Governmental Neutrality toward Prenatal Testing and Selective Abortion in Japan," *Eubios Journal of Asian and International Bioethics* 34(2), 2024, pp.44-55.
- 「自律尊重から人間尊重へ：「尊重する」とはどのようなことか？」『緩和ケア』 33(5), 2023, pp.389-393.
- "Changing our perspective: Is there a government obligation to promote autonomy through the provision of public prenatal screening?" Aya ENZO, Taketoshi OKITA, Atsushi ASAI, *Bioethics* 35(1), 2021, pp.40-46.
- "What deserves our respect? Reexamination of respect for autonomy in the context of the management of chronic conditions," Aya Enzo, Taketoshi Okita, Atsushi Asai, *Medicine, Health Care and Philosophy* 22(1), 2019, pp.85-94.

【村上暁子】

『入門・倫理学の歴史：24人の思想家』（共著、梓出版社、2016）

『レヴィナス読本』（共著、法政大学出版局、2022）

『個と普遍：レヴィナス哲学の新たな広がり』（共訳、法政大学出版局、2022）

『あらわれを哲学する：存在から政治まで』（共著、晃洋書房、2023）

「魂の身体性：レヴィナスにおける感受性の構造について」（『フランス哲学・思想研究』第22号、日仏哲学会、2017）

「レヴィナスにおける他者のユマニスムのかたち」（『エティカ』第10号、慶應義塾倫理学研究会、2017）

「レヴィナスとリクールの思想から責任と罪責性の連関を考える」（『エティカ』第14号、慶應義塾倫理学研究会、2021）

「レヴィナスにおける連帯の問題：ヤスパースとアーレントの戦争責任論に照らして」（『エティカ』慶應倫理学研究会（17）、2024）

入学後の指導教員

文学部倫理学専攻の専任教員6名のうち、文学研究科の委員を務める教員は3名（柘植・エアトル・荒谷）ですが、その他の教員（石田・圓増）も大学院で講義をもち、修士論文・博士論文の指導を担当しています。助教（村上）は現在、大学院の講義を担当していません。

エアトル君を指導教員とする場合は、英語で修士論文や博士論文を執筆します。

倫理学分野で研究できる領域

現在所属する専任教員の具体的な専門領域だけでなく、他領域の倫理思想を研究したい学生も受け入れております。最近受け入れた院生たちの研究対象の思想家・学問領域として、以下のような人名や分野を挙げることができます。

アリストテレス、カント、ニーチェ、ルソー、レヴィナス、フーコー、デリダ、ホッブズ、ロック、マンデヴィル、ミル、スペンサー、ロールズ、ウィリアムズ、ヌスバウム、現代の正義論・自由論、ケアの倫理、メタ倫理学 など

進学後、関心のあるトピックやテーマで研究することができるかは、指導する教員が判断しますので、事前に連絡を取って相談することを勧めます。

各教員の連絡先はこちらのページにあります。

<https://www.flet.keio.ac.jp/faculty/ethics/>

* 7月の大学院入学説明会には柘植、エアトル、荒谷の3名が出席しますので、その際もご相談にのることができます。倫理学分野に興味をもつ学内外の皆様のご参加をお待ちしております。

講義

哲学分野とともに哲学と倫理学に関するさまざまな講義を開講しています。それに加え、早稲田大学、上智大学、学習院大学の各大学院との相互履修制度を設けています。

【2025年度春学期の講義で扱っているテキスト（専任教員のみ）】

- | | |
|------|---|
| 柘植 | Simon Blackburn, <i>Ethics: A Very Short Introduction</i> , 2nd ed, OUP, 2021. |
| エアトル | Kant, Immanuel: <i>Kritik der reinen Vernunft</i> . |
| 荒谷 | フーコー 『性の歴史 I』 |
| 石田 | Oliver Eberl and Peter Niesen, <i>Immanuel Kant: Zum ewigen Frieden: Kommentar</i> (Suhrkamp Studienbibliothek 14), Berlin, Suhrkamp, 2011. |
| 圓増 | Kimberley Brownlee and Adam Cureton, <i>Disability and Disadvantage</i> , OUP, 2011. |

原則として、少人数で倫理学に関するテキストを精読するセミナー形式をとっています。また文献講読以外にも、授業内外で適宜、修士論文や博士論文の中間発表を行っています。

入学試験

入学試験では、修士課程・博士後期課程とも、

- 必修語学科目（英語）
- 選択語学科目（ドイツ語・フランス語のうち1つを選択）
- 専門科目（倫理学）

の3科目を受験することになります。語学では、哲学と倫理学に関する専門的なテキストを短い時間内で正確に読解する能力が要求されます。また、専門科目では、倫理学の諸理論と倫理学史についての幅広い知識と自分の研究分野についての深い関心をもとに、特定

のトピックについて首尾一貫した明晰な文章を書くことができるかどうかが問われます。過去に出題した問題は、以下のサイトで閲覧することができます。

<https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/past-exams/>

紀要・学内学会

院生は学内学会である三田哲学会に所属することになり、三田哲学会発行の『哲学』に投稿する権利をもっています。また博士後期課程の学生は、専攻独自の紀要『エティカ』に投稿することができるほか、毎年10月に開催されるMIPS（三田哲学会哲学・倫理学部門例会）で発表する機会が与えられます。

三田哲学会やMIPSの活動については以下のサイトをご覧ください。

三田哲学会のホームページ

<http://mitatetsu.keio.ac.jp/>

MIPSのホームページ

<https://sites.google.com/keio.jp/mips>

院生研究会

学期中、研究状況を報告する院生研究会を水曜日午後に随時開催しています。

原則として院生研究会には、倫理学分野に所属するすべての院生と教員が参加します。

院生研究会は、修士論文あるいは博士論文を執筆するために、個別の専門の違いを超えておたがいの原稿を検討する場として位置づけられています。学会での個人研究発表や投稿論文の準備のためにも利用されています。

2023年度より、学生の論文執筆およびネットワーキングの機会提供のために、倫理学の専門家を学外から呼びして、講演会「慶應倫理学コロキウム」を開催しています。

※ 慶應義塾大学文学部倫理学専攻ホームページ

<https://sites.google.com/keio.jp/ethics/home>